

# 短期大学における保育者養成の在り方に関する研究調査 —短期大学2年間で専門職を育てるための養成教育改革を提言する—

中山 正雄\*・瀧口 優・花原 幹夫・小松 歩・  
源 証香・長井 覚子・佐藤 文・宮崎 佑介

## 研究実績の概要

本研究は、保育者養成の短期大学の役割をあらためて考え、これからの時代に短期大学の保育者養成の課題を明らかにするとともに保育士養成の在り方や教育内容についての提言を行うことを目的としている。2019年度からの2年間で、調査研究を行うこととして進め、1年目は、白梅学園短期大学保育科の卒業生の実態調査と意識調査を行った。2年目となる2020年度は、短期大学の保育者養成に必要な現場実習先である保育所、幼稚園、児童福祉施設等を対象として、実態調査及び意識調査を実施した。コロナ禍の影響で調査が遅れたために、現時点では結果についての詳細な分析と検討は進行中である。また、当初予定していた短期大学協会等の行っている調査との検討や他の短期大学の養成校の現状や課題についての検討研究などが、コロナ禍の下で実施できていないために、2021年度に完成する方向で研究調査は継続することとしている。

2020年度の研究結果については、白梅学園短期大学保育科が実習先としている地域の保育所（認可保育所・幼保連携型認定こども園）400か所、幼稚園400か所、保育士資格所得のための施設実習対象施設200か所の合計1000か所の施設の管理職を対象とし調査票を配布した。配布数と回収数は表1-②のとおりである。全体では41.5%の回収で、回答の中にも「この調査に興味がある」との記入も多くみられた。

表1-① 調査票の配布数と回収数

実習先種別	配布数	回収数	回収率
保育所等	395	150	38.0%
幼稚園等	392	152	38.8%
福祉施設等	200	108	54.0%
合計	987	410	41.5%

調査の内容は1. 職員数とその中に占める短期大学での資格取得者数、四年制大学での資格取得者数の実態を。2. 管理職から見て、短期大学卒業後に働く職員と四年制大学卒業後に働く職員との比較について、①保育者としての姿勢やマインド、②知識、③技術、④コミュニケーション力、⑤向上心、⑥チーム力、⑦倫理、⑧現場で活かせる学びなどについての意識を。3. 短期大学の保育者養成で特に力を入れてほしいこと。4. 実習を行っている短大生と四大生の比較について、実習で学んでほしい内容について。5. 短期大学の保育者養成に期待すること。以上の5点についての実態及び意識調査である。

1. の中から、回答のあった保育者の数を短期大学養成校卒、四年制大学養成校卒、その他での取得に分けて聞いた。表1-②にその割合を示した。いずれも短期大学養成校卒の保育者が最も多く、保育現場における短期大学卒業生の果たしている大きさを物語っている。

表1-② 養成校別保育者数の割合

養成校	保育所	幼稚園	福祉施設
短大養成校卒	59%	77%	38%
四大養成校卒	18%	10%	32%
その他養成	23%	13%	30%

\*白梅学園短期大学名誉教授

次に2.からは、採用直後の短大卒業生と四大卒業生を比較して、8項目について聞いた中から2つの項目については表2-①、2-②で示した通りである。選択肢はア.優劣ない者が多い イ.どちらかという劣るものが多い ウ.劣るものが多い、の3つである。

表2-① 保育者としての姿勢やマインド

	保育所等		幼稚園等		施設等		合計	
	数	%	数	%	数	%	数	%
ア	123	82%	116	76%	71	66%	310	76%
イ	13	9%	19	13%	18	17%	50	12%
ウ	1	1%	0	0%	0	0%	1	0%
合計	137	91%	135	89%	89	82%	361	88%

(表1-①に示した回収数を100%としています。)

「アの優劣ない者が多い」について8項目を見てみると、①の姿勢・マインド、⑥のチーム力の二つが76%で最高となり、最低は②の保育者としての知識で62%となっている。保育所の回答で最も高いのは、⑥のチーム力で84%、最も低いのは②の知識71%となっている。幼稚園では、最も高いのが⑤の向上心と⑥のチーム力で77%となっている。最も低いのは保育所同様に②で59%である。福祉施設では、最も高いのが⑤の向上心で66%であり、最も低いのは他と同様に②の知識で53%となっている。

表2-② 保育者としての知識について

	保育所等		幼稚園等		施設等		合計	
	数	%	数	%	数	%	数	%
ア	107	71%	89	59%	57	53%	253	62%
イ	31	21%	44	29%	30	28%	105	26%
ウ	0	0%	2	1%	1	1%	3	1%
合計	138	92%	135	89%	88	81%	361	88%

(表1-①に示した回収数を100%としています。)

表2-②が最も低い値を示した「保育者としての知識」である。四大生と比較すればやむを得ないと考えられるが、全体の62%は優劣ない者が多いという認識を持っていることが確認できた。

そして、最も高いのが表2-①で示した保育者としての姿勢やマインドで、76%がアを選択している。

採用数年後の短大卒業生について同じ質問を行い比較したところ、「アの優劣のない者が多い」に回答した結果では、全体の合計の最高が⑥のチーム力で採用直後の76%から80%と4ポイントの増である。最低は②の知識であるが74%となり12ポイントの増となっている。保育所では、最高が⑥チーム力の86%で同じく2ポイント増、最低は②の81%で10ポイントの増となっている。幼稚園は、最高が⑥の82%で5ポイント増、最低は②で71%となり12ポイントの増である。福祉施設は、最高が①と⑤の向上心で72%になり6ポイントの増があり、最低は②と⑦の倫理で67%になり14ポイントの増である。なお「ウの劣るものが多い」についての回答状況には変化が見られなかった。この結果から、採用直後は差があるものの、現場で学び数年すると、短期大学卒と四年制大学卒の差は小さくなっているとみることが出来る。

3.4.5.については、紙面もありここでの報告が困難だが、この研究成果は、2021年度末に報告書を作成する予定である。